

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和2年12月4日
＜第4号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第9回教科等指導力養成講座

令和2年11月8日（日）に、外国語活動・外国語科の指導の基礎を身に付けることをねらいとして、東京都英語村（TGG）において講座を行いました。

TGGでは、一つの班につき1名のイングリッシュ・スピーカーが付きます。塾生は、イングリッシュ・スピーカーと直接コミュニケーションを図ることで、英語を学ぶ必要性やグローバル社会で生きる自分に気付くことができました。また、英語のみで会話する環境の中で、様々な体験的活動に取り組みながら、塾生は、自身の英語力の向上のみならず、児童・生徒が英語を使うことの楽しさや必要性を体感できる学習環境の在り方など、英語教育に関する実践的な指導力を高めることができました。



<担当スピーカーとの挨拶>



<買い物でのやり取りの場面>



<食堂でのやり取りの場面>



<旅行会社でのやり取りの場面>

【塾生の報告書より】

- ・ TGGでの体験プログラムにおいて、英語を通してコミュニケーションを図るだけでなく、英語を母国語とする生活圏の国ならではの雰囲気を味わうことができた。
- ・ 日頃の生活の中では、英語で会話をする機会がほとんどなかったが、今回の研修を通して、英語でコミュニケーションを図る貴重な経験を積むことができた。
- ・ 担当スピーカーによるアイスブレイクで取り入れていたゲームは、実際の学校においても活用できるものばかりだった。今後、外国語の授業を行う時には、積極的に取り入れていきたい。
- ・ 今回の講座では、他者と英語でコミュニケーションを図りながら、プログラミングに取り組む講座を体験した。小学校においても、「外国語を活用するのは外国語の時間だけ。」というわけではなく、外国語の充実を図るために、学校生活の様々な場面で英語を活用するような取組を行い、児童が英語に日常的に触れる機会をつくるなどの工夫も考えられると感じた。
- ・ 担当スピーカーは、とても親しみやすく、英語を話したくなるような雰囲気私たちに接していた。外国語活動だけでなく、日頃の児童との関わり方についての学びにつながった。児童が間違いを恐れず、積極的に取り組むことのできるような学級経営ができればいいなあと思った。
- ・ 買い物や病院、ホテルなど、様々なシチュエーションでの英語におけるやり取りは、とても貴重な経験だった。今後、自分から英語でコミュニケーションを図りたいと強く感じた。

●特別支援学校等の施設見学

東京教師養成塾では、特別支援学校の教育活動や児童・生徒の発達の段階に応じた指導等への理解を深めることを目的に、都立特別支援学校の授業参観を行っています。小学校コースは、特別支援学校の授業参観を、特別支援学校コースは、塾生が実習を行う教師養成指定校と異なる障害種別の授業参観を実施します。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、土曜日及び放課後を中心に特別支援学校の施設見学、管理職や特別支援教育コーディネーターの先生による講話等を実施しました。

塾生は、特別支援学校の各教室の環境や個別の教材、指導形態に触れながら、児童・生徒の実態に応じた教材づくりの大切さについて理解を深めることができました。

また見学した塾生からは、児童・生徒への実態把握の方法や組織的な児童・生徒への働きかけの意義についての質問もあり、特別支援教育の理解も深めることができました。

<都立特別支援学校の施設見学協力校（5校）>

都立高島特別支援学校：令和2年10月5日（土）実施

都立大塚ろう学校：令和2年10月31日（土）実施

都立府中けやきの森学園：令和2年11月7日（土）実施

都立中野特別支援学校：令和2年11月14日（土）実施

都立臨海青海特別支援学校：令和2年12月8日（火）実施



<特別支援学校の見学の様子>

【塾生の報告書より】

- ・ 副校長先生の講話を通して、聴覚障害のある子供の理解と支援について具体的に学ぶことができました。学級の中で工夫できることとして、視覚から情報を得る方法を活用することやICT機器の活用など、どの児童にとっても分かりやすい授業のユニバーサルデザインが重要であることを理解した。
- ・ 自立と社会参画できるような教育を行うことの大切さを学んだ。作業学習では、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習することがねらいとなっている。作業学習を計画的・継続的に行うことは、生徒の充実感、達成感、自己肯定感等を育み、卒業後の多様な社会参加の場での生活への意欲や態度を身に付けることにつながるということが分かった。
- ・ 特別支援学校では、学部ごとに目標が設定され、その実現に向けて教育活動が行われている。小学部では、身辺自立と丈夫な体、豊かな心の育成を目指し、身近な大人となる担任の先生とのコミュニケーションを通して、伝わる喜び・伝える喜び、人と関わる喜びを味わうことができるように活動を計画していた。児童が行ったり経験したりすることの全てが、学びとなることを学んだ。
- ・ 今回の見学を通して、「集団で学習する機会を設定する」ことの重要性を学ぶことができた。学級全体で学習課題を解決していく体験を計画的・継続的に行うことは、社会参画の意識を高めることにつながるということが分かった。
- ・ 「交流及び共同学習」の講話では、インクルーシブ教育の理念や具現化する手段について学ぶことができた。「ボッチャ」を通じた地域の小学校とのスポーツ交流では、同じ地域で異なる学校の友達同士のつながりを意識できるよいきっかけとなることが分かった。